

株式会社中静工業所 エコアクション21

2023年度 環境経営レポート

対象期間:2023年6月1日～2024年5月31日



®環境省

エコアクション21
認証番号 0002514



飯田事業所



下野工場



松野工場



高橋工場



内田事業所



九州佐賀工場

No	項目	頁
1.	環境経営方針	1
2.	事業概要	2-4
3.	環境経営目標とその実績	5-11
4.	主要な環境経営計画の内容	12
5.	環境活動内容（取組み状況）	13
6.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	14
7.	環境経営活動の取組結果の評価	15
8.	代表者による全体評価及び見直し・指示	16
9.	次年度の取組み内容	17

作成:2024年10月24日

rev: 241028

1. 環境経営方針

〔環境理念〕

株式会社中静工業所は、ハーネス等電装品の生産活動を通して、全員参加で環境保全活動に取り組む

〔基本方針〕

- (1) 環境保全活動は、次の項目を重点活動として継続的改善に取り組めます
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
※電力使用量とガソリン・軽油投入量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
※3R活動による廃棄物の削減
 - ③ 水道使用量の削減
※一般生活用水の節水意識向上
 - ④ 化学物質使用量の把握
※適正量の購入維持
 - ⑤ 環境に配慮した製品作りの推進
※梱包方法等の見直し、不良品率の削減
 - ⑥ 環境負荷削減と費用削減を両立
- (2) 環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します
- (3) 環境に配慮した製造活動を中心に、環境経営の継続的改善を実施します
- (4) 社内へは環境経営方針を全従業員に周知徹底を図り、社外へもHPを通じて環境経営レポートを開示します

制定：2008年 5月 10日

改定：2020年 6月 5日

株式会社中静工業所
代表取締役社長 岩田 潔周

2. 事業概要

(1) 組織の概要

2024年05月31日現在

会社名	株式会社 中静工業所					
代表者	代表取締役社長 岩田 潔周					
資本金	6000万円					
売上高	46.6億(2023年6月～2024年5月)					
事業年度	期首 6月1日～期末 5月31日					
年間稼働日数	250日					
就業形態	1シフト					
就業時間	8:00～17:00					
従業員数(全社)	264人					
創業	1960年4月					
環境管理責任者	技術・PJ部 永野 裕樹					
事業所名	高橋工場 (本社・管理部)	飯田事業所	下野工場	松野工場	内田事業所	九州佐賀工場
事業所所在地	〒424-0043 静岡県清水区 永楽町11-89	〒424-0041 静岡県清水区 高橋3-7-43	〒424-0041 静岡県清水区 高橋3-7-50	〒421-3303 静岡県富士市 南松野296-1	〒424-0008 静岡県清水区 押切1108-8	〒849-0903 佐賀県佐賀市 久保泉町大字下 和泉1859-10
設立	1979年3月	1995年3月	1986年12月	2007年5月	1991年7月	2017年8月
従業員数(工場)	34	61	76	49	5	39
敷地面積	1087㎡	796㎡	998㎡	2273㎡	855㎡	3425㎡
建物面積	1395㎡	1378㎡	1390㎡	1352㎡	614㎡	1988㎡

(2) 製品の概要

ハーネス等の電装品

家電用(冷蔵庫・エアコン等)及び自動車のランプ関係を中心とした、ハーネス品・樹脂成形品

自動車用ハーネス



リアコンビランプ用ハーネス



ヘッドライト用ハーネス

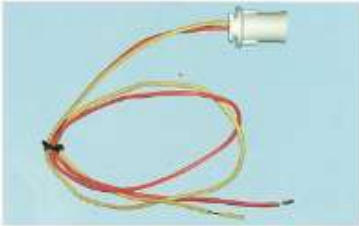


ホットメルトモールドスイッチハーネス

家電用ハーネス



冷蔵庫用ハーネス

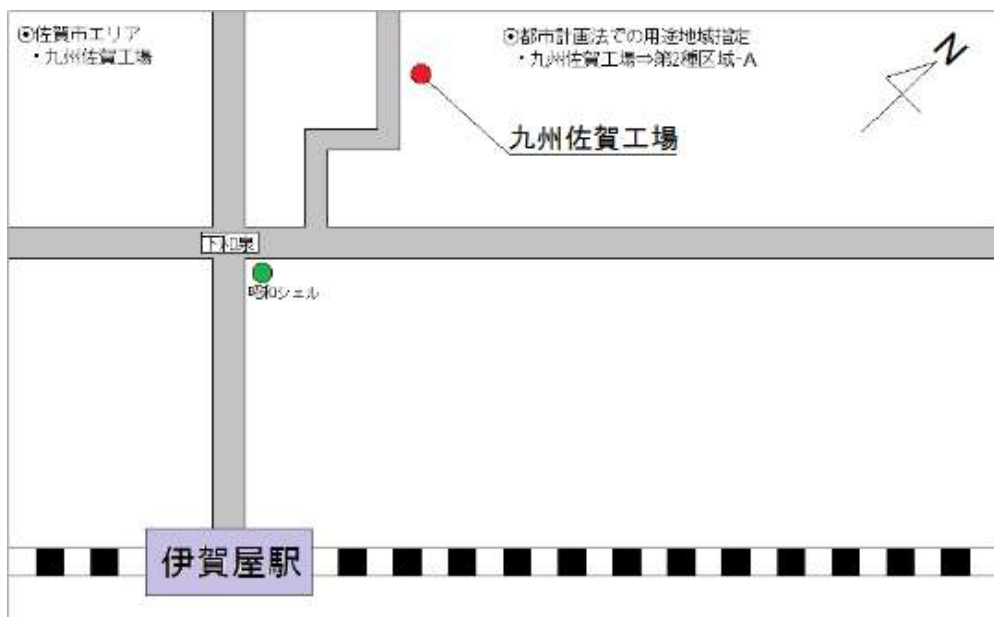
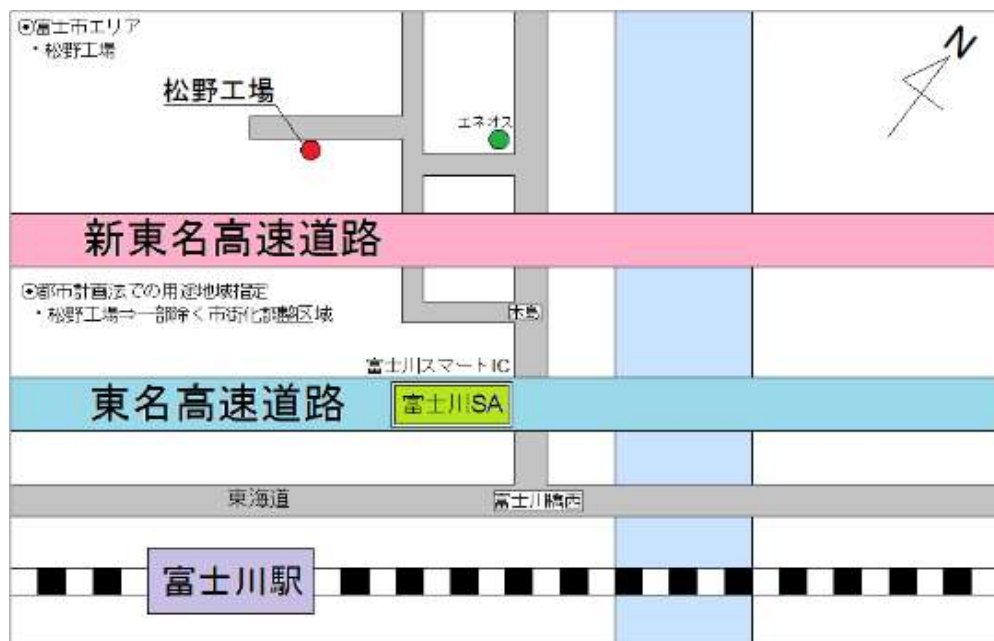


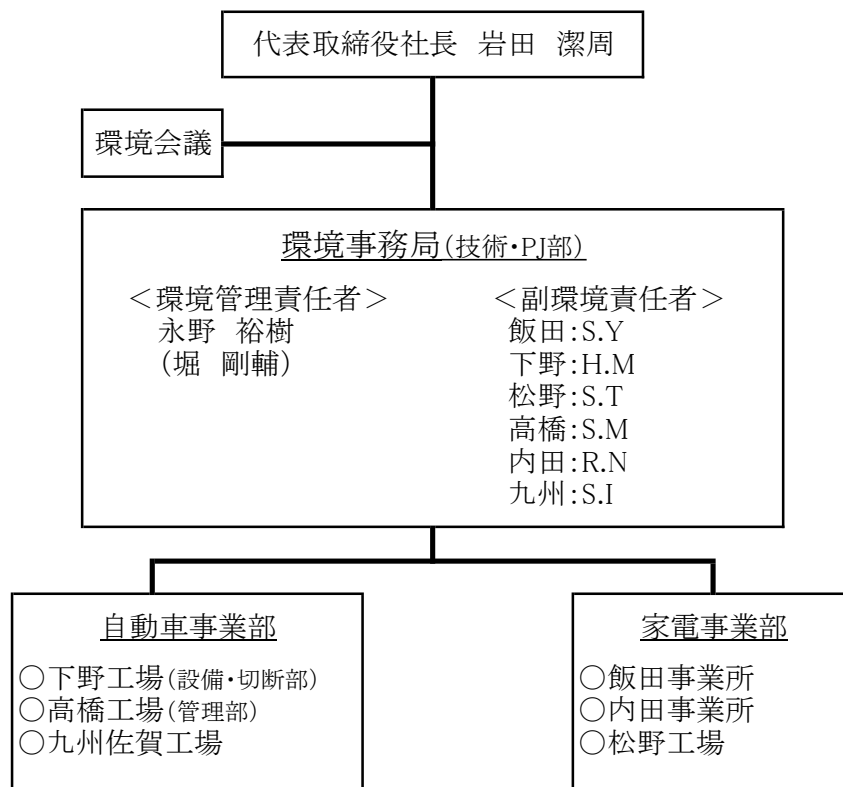
冷蔵庫用ランプソケット



エアコン用ハーネス

(3) 敷地概要





〔 役割分担 〕

①社長

- 環境経営システムの構築、及び全体の評価と見直し・指示
- 環境管理責任者、副環境管理責任者の任命
- 環境経営方針・環境経営目標の決定、及び見直し
- 環境経営計画の承認
- 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営資源(人材・設備・資金等)の準備
- 緊急事態発生時の統括
- 実施体制の構築

②環境管理責任者

- 環境経営システムを確立し、実施・維持管理を継続的に運用
- 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の立案
- 環境経営計画の推進状況把握と社長への報告
- 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況の把握と管理
- 環境経営システムに関する規定類の整備
- 運用管理、監視・測定、記録管理の統括
- 社長へ環境経営システム見直しに必要な情報を提供
- 年間の教育・訓練計画の作成
- 教育教材の調達
- 環境経営レポートの作成

③工場長

- 緊急事態発生時の対応と報告
- 問題等発生した際に、是正及び予防措置の対応指導
- 環境経営計画の推進と必要とする資源の準備

④副環境管理責任者 兼 内部監査員(各工場から1名選任)

- 環境教育・訓練の実施と記録
- 環境経営目標、環境経営計画の立案
- 環境経営方針と環境経営計画に沿い、環境経営活動の啓蒙活動
- 運用管理、環境管理責任者へ環境に関する情報の提供
- 環境経営計画の推進状況把握と工場長への報告
- 内部監査の定期的な実施と結果の評価と是正の展開

⑤従業員

- 環境経営方針と環境経営計画に沿い、環境経営活動の実施

3. 環境経営目標とその実績 < 全社 >

【目標】2021年度の比率を基準とし

2022年度：-1%

2023年度：-2%

2024年度：-3% とする

【比率】排出量/売上にて算出

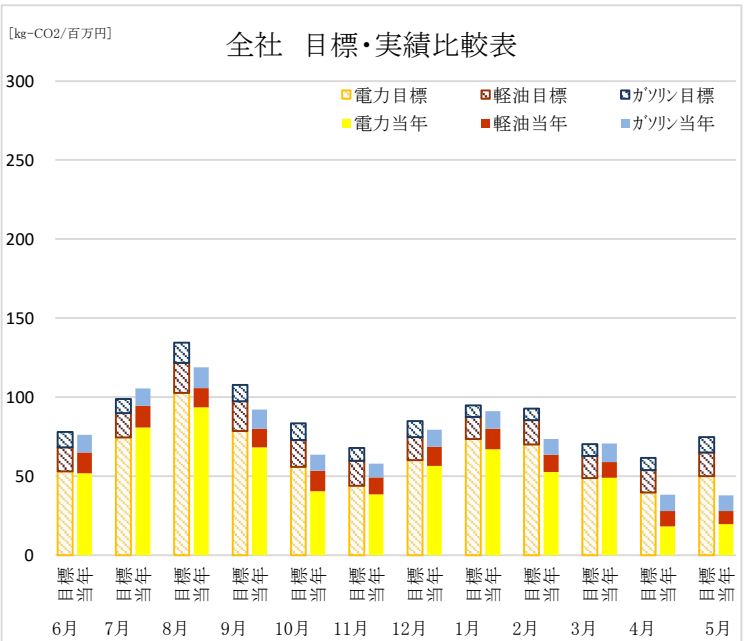
【達成率】目標比率/当年比率(100%以上で達成)

【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする

【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l

①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	全社2023年度 月別実績(2023.06～2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			累計
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 / 百万円	基準比率	79.6	100.7	137.2	109.8	85.1	69.1	86.4	96.7	94.6	71.6	62.8	76.1	-
		目標比率	78.0	98.7	134.5	107.6	83.4	67.7	84.7	94.8	92.7	70.1	61.5	74.6	-
		当年比率	76.0	105.4	118.7	92.0	63.5	57.8	79.4	91.1	73.5	70.7	38.2	37.7	-
	kg-CO2	当年	29,771	39,927	36,593	36,628	25,188	23,752	29,158	28,178	27,797	26,171	14,614	16,406	334,183
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	20,298	30,587	28,814	27,098	15,999	15,785	20,741	20,733	19,872	18,148	6,966	8,469	233,509
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	5,113	5,225	3,763	4,742	5,149	4,407	4,437	3,993	4,139	3,658	3,657	3,610	51,895
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	4,359	4,115	4,016	4,789	4,040	3,560	3,980	3,452	3,786	4,365	3,991	4,327	48,779
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	139	176	115	135	148	105	172	108	191	187	141	112	1,729
水使用量	m ³	前年		279		273		333		285		324		282	1776
		当年		309		283		323		276		287		285	1763



	目標達成率					結果	確認 サイン	評価 (課題、問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2				
第1期	102%	127%	90%	143%	104%	達成	10/9 永野	総CO2目標達成 今期より目標値に影響する売上の仕 分けを適正化(これまでは高橋分の 売上の一部が下野分となっていた)	多くを占める電力のCO2排出に対し 太陽光発電の検討を継続 その他にも方法が無いかを模索して いく
第2期	121%	145%	94%	168%	121%	達成	1/10 永野	客先からの指示にてカーボンニュートラル に向けての具体的な対策・計画が必要 となってきた	静岡エリアの太陽光発電導入はメリット が見込めないためクロス CO2フリー電気の調査・見積を開始 まずは理解を深め、検討を進める
第3期	116%	122%	78%	107%	112%	達成	4/22 永野	総CO2目標達成 課題事項: 現在は廃棄物のうち焼却ごみの みを目標に取り上げているが、今後は産業 廃棄物(混廃、ビニール等)も取り上げることを 検討	客先からの要望により、下野工場・高 橋工場にてCO2フリー電気を契約 4/1～導入開始、2工場の電力の CO2排出量は0となる
第4期	159%	156%	77%	153%	141%	達成	7/1 永野	総CO2目標達成、ガソリンが未達 4月より、下野・高橋はCO2フリー電気へ切替 一方、燃料に関しては大幅に減らすことの できる具体策が見つかっていない	エアコン使用の時期となるためデマンド装置 を活用し電力消費を抑える 燃料に関して、まずはエコドライブの意識 向上を目指す
年間	119%	135%	84%	141%	117%	達成	7/1 永野	総CO2目標達成 今後、カーボンニュートラルに対しての現状 の分析(見える化)を進めていきたい	これまで廃棄物の目標管理は燃える ごみのみを取り上げていたが、次年度 より産業廃棄物も対象とする

3. 環境経営目標とその実績 <飯田事業所>

【目標】2021年度の比率を基準とし

2022年度：-1%

2023年度：-2%

2024年度：-3% とする

【比率】排出量/売上にて算出

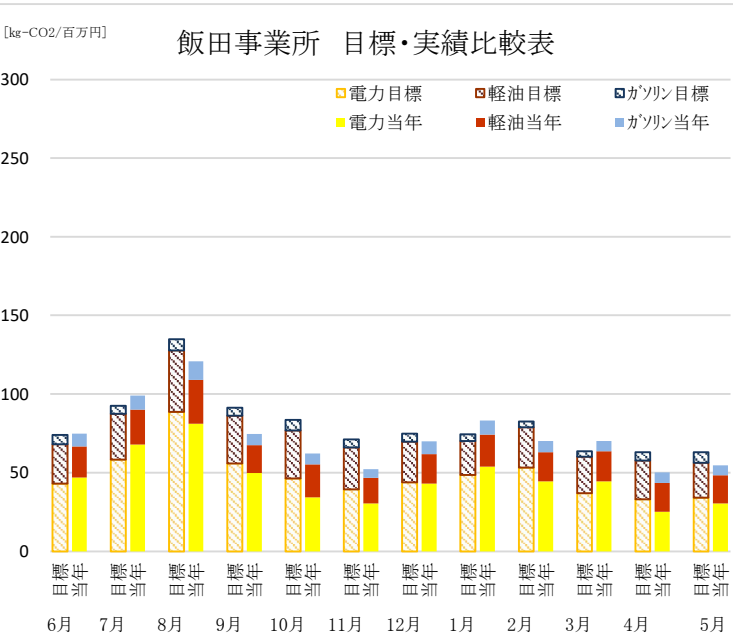
【達成率】目標値/実績値×100にて算出

【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする

【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l

①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	飯田事業所 2023年度 月別実績(2023.06～2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			累計
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 / 百万円	基準比率	75.5	94.4	137.6	93.0	85.3	72.5	76.4	75.9	84.2	65.0	64.2	64.3	-
		目標比率	74.0	92.5	134.8	91.2	83.6	71.0	74.9	74.4	82.5	63.7	62.9	63.0	-
		当年比率	74.8	99.0	120.7	74.5	62.2	52.1	69.9	83.2	70.1	70.2	50.1	54.7	-
	kg-CO2	当年	6,751	8,398	8,191	8,054	6,003	5,348	6,476	6,263	6,343	5,579	4,887	5,380	77,673
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	4,230	5,762	5,507	5,371	3,308	3,131	3,991	4,055	4,027	3,530	2,451	2,990	48,352
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	1,784	1,879	1,893	1,910	2,028	1,664	1,723	1,535	1,671	1,534	1,794	1,769	21,184
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	737	757	791	774	667	553	762	673	644	514	643	622	8,137
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	36	58	26	39	40	34	55	27	40	34	38	38	465
水使用量	m ³	前年		55		50		62		56		55		57	335
		当年		57		47		56		52		55		51	318



	目標達成率					結果 確認 サイン	評価 (課題、問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2			
第1期	97%	134%	62%	126%	102%	達成 10/16 S.Y	2トトラックからハイースに切替をしており 軽油からガソリンに変わったため ガソリンの目標が未達成となっている	デマンド装置に警告が出ている事があり、その都度不要な照明の消灯や冷房の設定温度を上げて対応
第2期	123%	160%	87%	144%	130%	達成 1/23 S.Y	ガソリン以外で目標達成 目標達成率も良くなっている 10月より静電増産により売上が増加	静電部門が増産となっているが基本 定時退社となるよう部門間応援対応 実施 継続し不要な照明の消灯を呼びかけ
第3期	103%	127%	54%	143%	104%	達成 4/5 S.Y	ガソリン以外で目標達成 目標達成はしているが電力、軽油の 達成率が悪くなっている ガソリンも使用量増加	ニッセイ部門新規製品立ち上がりにより 工場稼働時間が増加。部門間応援にて 残業時間が低減出来るよう対応実施。 作業者に確認し不要な蛍光灯の 撤去を実施。
第4期	104%	126%	80%	113%	108%	達成 7/22 S.Y	ガソリン以外の項目で目標達成 ガソリンの項目は次年度から比較対象 とし評価をする	家電部門の生産が少ないため 基本定時退社を継続 自動車部門の工場稼働時間が 低減出来るよう定時間内に 家電部門より作業応援対応
年間	106%	135%	69%	132%	110%	達成 7/22 S.Y	年間を通じ目標達成 電力の項目が全期でギリギリ達成の ため低減出来る方法の検討が必要	家電部門の生産がこの先も 増産の見込みが低い ため 家電部門から自動車部門への 配置換えも検討し、自動車部門の 工場稼働時間低減を検討

3. 環境経営目標とその実績 <下野工場>

【目標】2021年度の比率を基準とし

2022年度：-1%

2023年度：-2%

2024年度：-3% とする

【比率】排出量/売上にて算出

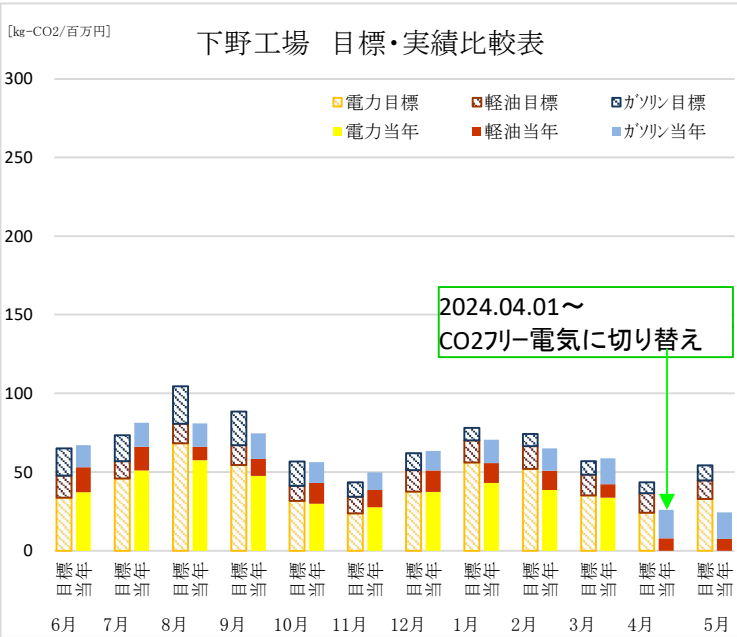
【達成率】目標値/実績値×100にて算出

【水道】生活用での使用の為、目標値は定めて前年度と当年度の比較のみとする

【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l

①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	下野工場 2023年度 月別実績(2023.06~2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			累計
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 / 百万円	基準比率	66.3	74.8	106.7	90.3	57.9	44.3	63.1	79.7	75.6	57.9	44.3	55.3	-
		目標比率	65.0	73.3	104.6	88.5	56.8	43.4	61.9	78.1	74.1	56.8	43.4	54.2	-
		当年比率	67.1	81.2	81.0	74.6	56.2	49.8	63.3	70.5	65.0	58.6	25.9	24.3	-
	kg-CO2	当年	7,796	9,663	8,122	9,280	7,114	6,523	7,439	6,993	7,776	7,748	3,218	3,334	85,006
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	4,303	6,062	5,757	5,895	3,766	3,617	4,385	4,277	4,603	4,445	0	0	47,111
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	1,860	1,794	857	1,363	1,682	1,432	1,590	1,241	1,473	1,135	979	1,006	16,413
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	1,633	1,806	1,508	2,023	1,666	1,475	1,463	1,475	1,699	2,168	2,240	2,328	21,483
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	76	71	56	73	72	60	63	56	60	67	68	55	776
水使用量	m ³	前年		75		72		102		76		106		55	486
		当年		82		73		98		65		81		79	478



	目標達成率					結果 確認 サイン	評価 (課題、問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2			
第1期	102%	94%	130%	129%	106%	達成 10/16 H.M	全体的に増産傾向にあり、残業が増えている事に加え、猛暑続きではあったが、エアコンの使用状況により、目標達成となったと思われます。	増産、新製品の立ち上がり品レベルUP対応の為、内職増員により、社内作業の低減。内職増員により、臨時便の低減も平行。
第2期	105%	93%	113%	127%	104%	達成 1/11 H.M	フォレストスターのモデルチェンジ対応の為、EP4の生産追い込みもあり、臨時便発生等で、軽油のみ目標未達だが、総CO2は達成出来た。	1期に引き続き、社内作業の内職展開を継続中。残業時間の低減と臨時便の低減をしていく。
第3期	123%	110%	63%	134%	108%	達成 4/9 H.M	ダイハツ・トヨタの不正、スバルの人身事故により、出荷数の大幅減により、残業時間の短縮強制により、2期よりCO2排出量が削減出来た	ダイハツ・トヨタ・スバルの再稼働による挽回対応、引き続き社内負荷を低減の為、内職補充展開を継続
第4期	274%	158%	48%	137%	142%	達成 7/3 H.M	社用車キャラバン(ディーゼル)車廃車し、ハイエース(ガソリン)に代替。ガソリンの使用量が増え、軽油の使用量が減った。全体での総CO2達成率は向上。	電力のCO2排出量は、再エネ化により”0”となったが、電力量の使用については、節電を心がける様、周知して頂く
年間	121%	110%	83%	130%	110%	達成 7/3 H.M	年間を通じて、総CO2排出量は達成できて良かったが、軽油・ガソリン使用量の未達月があった。	ムダな臨時便を軽減し、アイドリングストップに協力して頂き、燃料使用量を低減していく。

3. 環境経営目標とその実績 <高橋工場>

【目標】2021年度の比率を基準とし

2022年度：-1%

2023年度：-2%

2024年度：-3% とする

【比率】排出量/売上にて算出

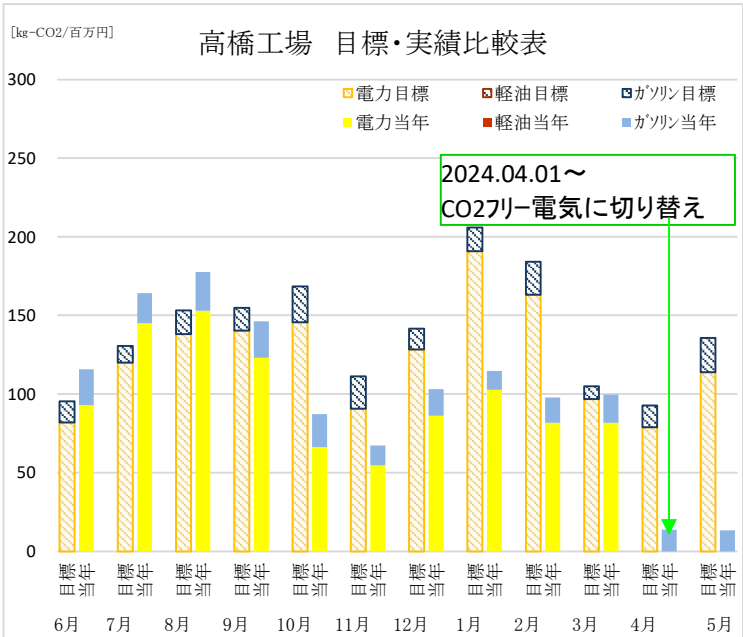
【達成率】目標値/実績値×100にて算出

【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする

【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l

①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	高橋工場 2023年度 月別実績(2023.06～2024.05) 目標:2021年度に対し、削減率2%												
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期		
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 / 百万円	基準比率	97.3	133.3	156.3	157.8	171.9	113.5	144.4	210.0	187.7	107.0	94.5	138.4
		目標比率	95.4	130.6	153.2	154.7	168.5	111.2	141.5	205.8	184.0	104.8	92.7	135.6
		当年比率	115.7	164.0	177.5	146.2	87.3	67.3	103.1	114.7	97.7	99.6	13.8	13.3
	kg-CO2	当年	3,742	5,720	5,555	5,235	3,061	2,884	3,875	3,800	3,953	3,658	510	534
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	3,003	5,058	4,788	4,407	2,326	2,341	3,237	3,399	3,303	3,000	0	0
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	該当車両無し											
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	738	662	768	829	735	543	638	401	650	659	510	534
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	6	6
水使用量	m ³	前年		48		44		51		49		54		50
		当年		53		50		56		54		55		55



	目標達成率					結果 確認 サイン	評価 (課題、問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2			
第1期	87%	該当車両無し	59%	排出無し	83%	未達成 10/4 S.M	・内職者増加のため配送距離が延びた ・内職便の荷物が増え臨時便が増えた ・エアコンの使用で燃費が悪化した	・内職便ルートの見直しにより 走行距離を短く出来るか検討する ・デマンド目標値の変更 95Kw⇒80Kw
第2期	154%		102%	排出無し	144%	達成 1/12 S.M	・自動車移動時、社内共に、にエアコン を使用しなくなり燃費が向上した事が CO2排出量低減に一番効果があったと 思われる。	・今後も低燃費運転(アイドリングストップ、急発進 等)の周知徹底する。 ・デマンド目標値の変更 2023年1～12月のピークを監視、8月74.6Kwピー ク'24年1月より目標値を80Kw⇒70Kwに変更
第3期	178%		109%	0 %	168%	達成 4/12 S.M	・残業制限により、照明、空調機の稼働 時間が低減され電力達成率に貢献した	・LED照明への切替が進んでいない 月に数本ずつでもLED照明に交換していく
第4期	354%		97%	1 6 1 0 %	263%	達成 7/5 S.M	・CO2フリー電気への切り替えにより電力 の達成率が大きく改善された ・ガソリンが達成できなかった ・焼却ゴミ増は4月に実施した2Sによる	・内職便でエアコンを使用する季節になるの で荷積み荷降ろしの時のエンジン停止の励 行 ・急発進や空ぶかし等はせず、省燃費運転 を徹底する
年間	150%		85%	2 1 2 6 %	138%	達成 7/5 S.M	・電力は目標達成出来る様になったが、 ガソリンがなかなか達成出来ない状況に ある	・内職は増えているが効率の良いルート が検討されていない ・定期的にルートを見直し、効率の良い ルートに変えて行く

3. 環境経営目標とその実績 <松野工場>

【目標】2021年度の比率を基準とし

2022年度：-1%

2023年度：-2%

2024年度：-3% とする

【比率】排出量/売上にて算出

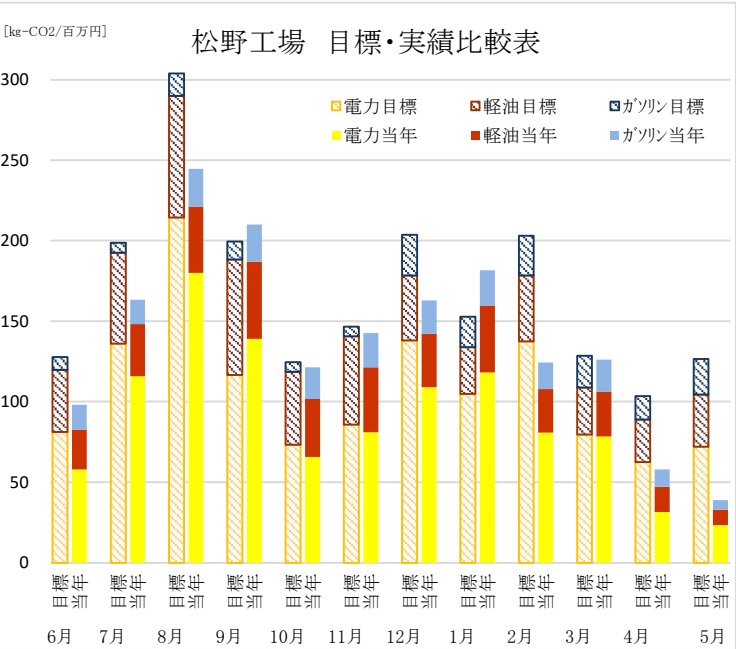
【達成率】目標値/実績値×100にて算出

【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする

【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l

①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	松野工場 2023年度 月別実績(2023.06～2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			累計
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 / 百万円	基準比率	130.2	202.8	310.0	203.5	127.1	149.6	207.9	155.8	207.2	131.2	105.5	129.2	-
		目標比率	127.6	198.7	303.8	199.4	124.5	146.6	203.7	152.7	203.1	128.6	103.4	126.6	-
		当年比率	98.1	163.2	244.6	210.0	121.3	142.6	162.8	181.5	124.3	126.1	57.9	38.9	-
	kg-CO2	当年	5,835	7,803	6,021	6,465	4,861	4,634	5,511	5,317	4,598	4,477	3,254	3,419	62,197
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	3,442	5,537	4,433	4,283	2,635	2,634	3,688	3,463	2,992	2,785	1,770	2,053	39,715
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	1,469	1,552	1,013	1,470	1,439	1,311	1,124	1,217	994	988	885	835	14,298
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	924	714	576	712	787	689	700	637	612	703	599	530	8,183
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	23	45	32	21	34	9	24	3	11	13	16	12	241
水使用量	m ³	前年		53		55		62		59		58		69	356
		当年		65		60		56		57		49		52	339



	目標達成率					結果	確認 サイン	評価 (課題、問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2				
第1期	122%	173%	52%	82%	125%	達成	10/16 S,T	【ガソリンについて】 2t車(軽油)をパネット(レギュラー)に変更していることが達成率を下げている。 BM時は2t車3台を使用していた。	焼却ごみの増加については一時的なものと判断。紙類はできるだけ両面使用するように再指導。
第2期	96%	139%	36%	120%	99%	未達成	1/15 S,T	ガソリンについては第3期より比較対象として評価する。(2021年12月からパネットに変更している)。不在時の消灯は継続してできている。	12月～朝一に氷点下になる日が増えてくるのでエアコンが早い時間から稼働することがある。温度設定と稼働時間を考慮して電力コントロールをしていく。
第3期	124%	108%	117%	171%	119%	達成	4/22 S,T	内職便のルート見直しを随時行っており、ガソリン使用量の低減に繋がっている。内職ルート見直しは今後も継続していきたい。	昨年にエアコンの買い替えを行い、省エネ効果有り。 過剰に設置してある蛍光灯(LED)の撤去を行っていく。
第4期	161%	166%	154%	255%	161%	達成	7/19 L,K	3期で実施した内職ルートの見直しを継続している。また、ガソリン車2台と軽油車3台あるが、ガソリン車1台と2t車(軽油)2台で内職を回ることにより軽油使用量を抑えている	蛍光灯(非LED)である場所において、必要分をLED化し、不要な蛍光灯は撤去する。 15年経過した残価償却設備や経年劣化している電気、電化設備等は更新を行い、消費電力量の削減をする。(設備更新)
年間	132%	153%	90%	140%	131%	達成	7/19 L,K	年間ガソリン使用量は1期2期の影響が響いているが、3期4期で挽回しており、継続的に今後も取り組み削減を目指す。	電力削減については、作業効率化を図って残業時間を減らし、工場使用電力を抑制していく。

3. 環境経営目標とその実績 <内田事業所>

【目標】2021年度の比率を基準とし

2022年度：-1%

2023年度：-2%

2024年度：-3% とする

【比率】排出量/売上にて算出

【達成率】目標値/実績値×100にて算出

【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする

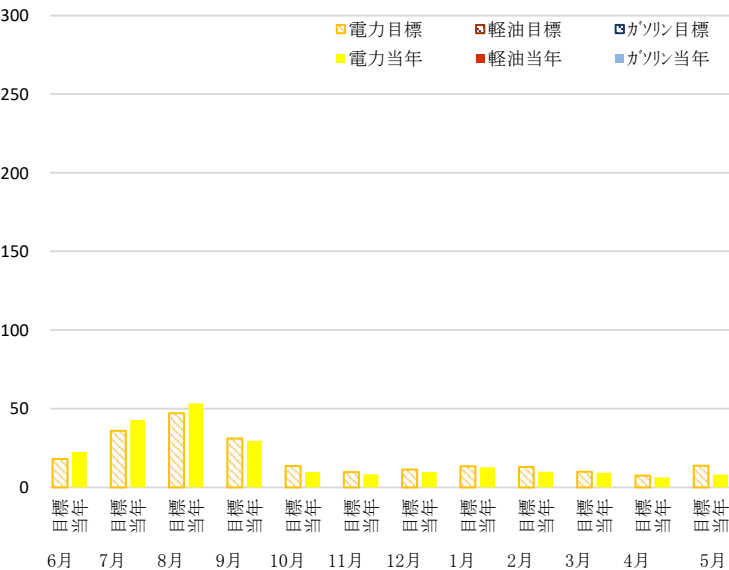
【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l

①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	内田事業所 2023年度 月別実績(2023.06~2024.05)													目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			累計	
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5		
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 / 百万円	基準比率	18.4	36.7	48.0	31.6	13.8	9.8	11.5	13.5	13.1	10.1	7.5	14.0	-	
		目標比率	18.0	35.9	47.1	31.0	13.5	9.7	11.2	13.2	12.8	9.9	7.4	13.7	-	
		当年比率	22.5	42.7	53.4	29.5	9.7	8.1	9.6	12.7	9.9	9.3	6.3	8.0	-	
	kg-CO2	当年	1,680	3,061	2,991	2,207	726	628	674	753	710	660	495	726	15,312	
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	1,680	3,061	2,991	2,207	726	628	674	753	710	660	495	726	15,312	
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	該当車両無し													
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年														
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
水使用量	m ³	前年		15		17		18		14		16		17	97	
		当年		17		20		17		13		12		13	92	

[kg-CO2/百万円]

内田事業所 目標・実績比較表



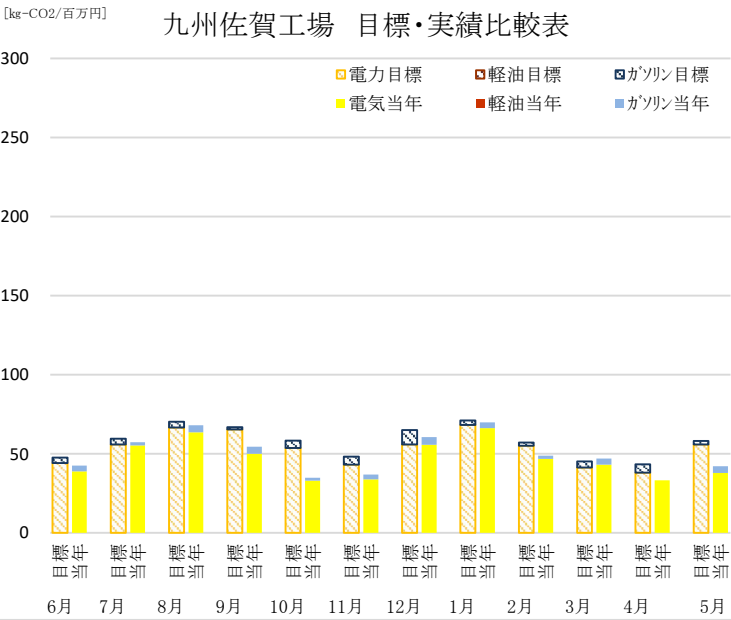
目標達成率						結果 サイン	評価（課題、問題点）	是正措置及び予防措置		
電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2						
第1期	85%	該当車両無し			排出無し	85%	未達成	10/13 R.N	例年に比べ猛暑日が多く、エアコンの稼働日が増えたため、未達成となった サーバ室のエアコンも猛暑日に合わせた設定にしているため稼働時間が長くなった	サーバ室のエアコンの温度調整を外気温を確認し細かく調整を行い、現場のエアコンの設定温度は都度調整を行っていく LED化が遅れているため順次進めていく
第2期	114%				排出無し	114%	達成	1/23 R.N	不要な電灯の消灯を再度徹底し、サーバ室や現場のエアコンの温度調整を細かく行った結果達成となった	休憩時間や不要な電灯の消灯を継続していく
第3期	116%				排出無し	116%	達成	4/3 R.N	常時使用していた暖房器具を必要に応じて使用することにした結果達成となった	4月頃よりサーバ室の温度調整が必要となってくるため、温度を管理するIoTデバイスを利用してエアコンの制御を行っていく
第4期	131%				排出無し	131%	達成	7/3 R.N	サーバ室のエアコンの使用時間をIoTデバイスにより制御した結果達成となった	サーバ室に導入したIoTデバイスのエアコンONの条件を細かく指定し不要なエアコンの使用を行わないようにする
年間	101%				排出無し	101%	達成	7/3 R.N	目標達成となったが、第1期は夏場のエアコンの稼働時間が長くなったことで達成できていないため、今後も検討課題として改善を行っていく	現場で使用しているエアコンが古く設定温度管理が難しいため、サーバ室のエアコンの温度制御を引き続き行っていく

3. 環境経営目標とその実績 <九州佐賀工場>

【目標】2021年度の比率を基準とし
2022年度：-1%
2023年度：-2%
2024年度：-3% とする

【比率】排出量/売上にて算出
【達成率】目標値/実績値×100にて算出
【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする
【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項 目	単位	九州佐賀工場2023年度 月別実績(2023.06～2024.05) 目標:2021年度に対し、削減率2%													
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			累計
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 / 百万円	基準比率	48.4	60.7	71.6	68.1	59.4	49.1	66.2	72.4	58.2	46.0	44.1	59.1	-
		目標比率	47.5	59.4	70.2	66.7	58.2	48.1	64.8	70.9	57.0	45.1	43.3	57.9	-
		当年比率	42.3	57.1	67.9	54.4	34.7	36.6	60.5	69.7	48.7	46.8	33.2	42.1	-
	kg-CO2	当年	3,967	5,283	5,712	5,386	3,422	3,734	5,182	5,052	4,417	4,048	2,251	3,013	51,467
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	3,639	5,108	5,338	4,935	3,238	3,434	4,765	4,786	4,237	3,728	2,251	2,700	48,157
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	該当車両無し												-
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	328	175	374	451	184	300	417	266	181	321	0	313	3,309
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	4	3	1	2	3	2	31	22	78	67	13	2	229
水使用量	m³	前年		33		35		38		31		35		34	206
		当年		35		33		40		35		35		35	213



	目標達成率					結果 サイン	評価 (課題、問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2			
第1期	105%	該当車両無し	112%	620%	106%	達成 S.I	全項目にて目標達成 デマンドが数回鳴ったが、 都度、空調を弱めたり、2階の空調を 切るなどして対応した。	第2期10月～は気温が下がるため、 真夏日以外は空調稼働の抑制、 空調の稼働時間短縮を行い 電力達成率向上を目指す
第2期	139%		120%	214%	138%	達成 S.I	全項目にて目標達成 売上増加が達成率向上に寄与してい る。	第3期12月～は暖房稼働による電力達 成率低下が想定されるため、 朝会にてウォームビス推進を行い、 空調の過度な温度設定抑制と稼働時間 短縮を実施する
第3期	106%		133%	2%	108%	達成 S.I	焼却ゴミが未達となった。 顧客指示により12月よりウエットティッシュを同 梱して出荷をしている。 返却されたウエットティッシュを全数廃棄してい るため、排出量が増加した。	第4期(3月～)は過ごしやすい気温と なるため、基本的に空調は稼働させ ない。※稼働させたい場合は、管理 者へ相談する様、朝会で呼びかけ
第4期	118%		139%	8%	120%	達成 S.I	焼却ゴミ未達の原因は3期と同様 (4月上旬まで実施) 電力に関して第4期期間は空調を基本稼働さ せなかった事が達成率向上に寄与したと思われ る。	空調の負荷軽減のため、冷気を外に 逃がさない様、カーテンを有効活用す る。過度な温度設定を抑制する様、朝 会にて呼びかけ
年間	116%		125%	34%	117%	達成 S.I	デマンド導入で従業員の節電意識が高まり、電力 達成率上昇に寄与した。 焼却ゴミ未達はウエットティッシュ廃棄が主な原 因。来年度以降は、部品の設計変更により改善が 行われたため、実施しない意向である。	空調の過度な温度設定抑制にて電力の達成率向上 無駄なアイドリングの抑制によるガソリンの達成率向上 裏紙使用の積極的な呼びかけによる焼却ゴミ低減 来年度は上記3項目をメインに活動を行っていく。 24年8月より電気料金が値上げとなるが、 顧客へ値上げ分の請求を実施する予定となっている。

4. 主要な環境経営計画の内容

承認	作成
2023.06.07	2023.06.06
岩田	永野

※ ■は新規取組の活動

※ 計画 ■ 実行 ■

環境目標・環境経営計画の項目			具体的展開	推進責任者 推進担当者		2023年度 環境経営計画											
						6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
(1) 二酸化炭素排出量削減(kg-CO2) 電気使用量の削減																	
①	エアコンの適切な温度管理	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績													
②	エアコンフィルター清掃	2週間に1回を目安	各工場設備担当者	計画 実績													
③	照明器具の間引き点灯徹底	巡回時等にチェック	副環境責任者	計画 実績													
④	休み時間消灯実施	昼・3時	副環境責任者	計画 実績													
⑤	コンプレッサーのフィルター清掃	定期的な清掃実施	設備・切断部	計画 実績													
⑥	コンプレッサーの適切な圧力調整	定期的な確認	設備・切断部	計画 実績													
⑦	空調機器の買換検討	省エネタイプを優先に選定	社長・事務局 副環境責任者	計画 実績													
⑧	使用電力量の可視化	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績													
⑨	二酸化炭素排出量の可視化	売上/人/面積等の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績													
⑩	デマンド監視装置のアラーム値直し検討	必要であれば変更	事務局	計画 実績													
⑪	売上を反映したCO2排出量の目標管理	「環境経営目標とその実績」にて 目標設定・展開	事務局 副環境責任者	計画 実績													
⑫	エア漏れの点検・修復	業者による点検 各工場で修理対応	事務局 副環境責任者	計画 実績													
⑬	太陽光発電の導入の検討	環境会議等にて検討	事務局 副環境責任者	計画 実績													
(2) 二酸化炭素排出量削減(t) ガソリン・軽油投入量の削減																	
①	運行ルートの見直し	運行ルートの把握/見直し	工場管理者	計画 実績													
②	日常点検整備	点検表に基づき点検	全員	計画 実績													
③	エコドライブ意識付け	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績													
④	ガソリン・軽油投入量の可視化	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績													
⑤	二酸化炭素排出量の可視化	売上/人/面積等の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績													
⑥	売上を反映したCO2排出量の目標管理	「環境経営目標とその実績」にて 目標設定・展開	事務局 副環境責任者	計画 実績													
(3) 廃棄物排出量削減(kg)																	
①	裏紙の再利用徹底	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績													
②	個人ゴミの持ち帰り徹底	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	事務局 副環境責任者	計画 実績													
③	廃棄物分別の徹底	分かり易い分別表示/全体ミーティング等で呼びかけ	事務局 副環境責任者	計画 実績													
④	産業廃棄物一覧表の配布	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績													
(4) 水使用量の削減(m³)																	
①	節水の指導	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	事務局 副環境責任者	計画 実績													
②	トイレの節水対策	消音器の設置	副環境責任者	計画 実績													
(5) 化学物質の適正量購入把握																	
①	適正購入量の把握	購入時に対応(現在、該当ナシ)		計画 実績													
(6) 環境に配慮した製品作り																	
①	環境負荷物質調査	負荷物質の調査	石塚S	計画 実績													
②	全員で環境を配慮	廃棄品の分別徹底	事務局 副環境責任者	計画 実績													
③	ECO検定	合格体系的に環境を学ぶ	事務局 副環境責任者	計画 実績													
④	教育・訓練	環境会議等でテーマを選定し教育	事務局	計画 実績													
(7) SDGsへの取り組み																	
①	全員でSDGsへ取り組む	掲示物で情報発信 NPO法人への寄付	全員	計画 実績													
(8) 災害に対する防災・減災対策の推進																	
①	冠水危険エリアの対策	部材・完成品・備品等のかさ上げ	工場管理者	計画 実績													
活動 コメント	6～8月	2023.09.06	業者によるエア漏れ点検を実施し3工場で57か所のエア漏れ発見、コンプレッサーの無駄な稼働を無くす事で、電気代・CO2排出量の低減、老朽部品の破損による怪我・生産停止リスクの回避														
	9～11月	2023.12.04	太陽光発電の検討では、屋根の耐荷重不明(建物の図面無し、専門業者による調査が必要)や、パネルの廃棄時のリスクもあるため、今回は導入しないと判断														
	12～2月	2024.03.04	カーボンニュートラルへの取り組みにて、2030年までにCO2の排出量を50%削減することが必須となり「CO2フリー電気」の検討を開始														
	3～5月	2024.06.03	2024年4月1日より下野工場・高橋工場で「CO2フリー電気」へ切り替え、予測効果・コストを前年度の実績と比較し下野工場▲59%、高橋工場▲84%のCO2削減、今後実績の見える化を検討														

5. 環境活動内容

作成日 2024年 6月 19日

(1) 二酸化炭素排出量削減

①CO2フリー電気へ切り替え(下野工場/高橋工場)

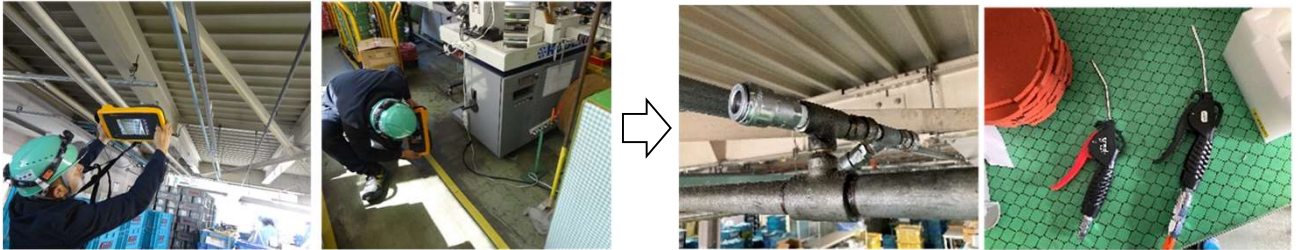
※前年度の実績から効果を予測

工場	切替前	切替後	CO2削減量	コスト※(実質の負担額)
下野	<p>■ 電力 ■ 軽油 ■ ガソリン</p> <p>10,000 5,000 0</p> <p>[kg-CO2]</p> <p>6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月</p>	<p>10,000 5,000 0</p> <p>[kg-CO2]</p> <p>6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月</p>	<p>▲52,243kg-CO2</p> <p>(▲59%)</p>	<p>57,008円/年</p>
高橋	<p>10,000 5,000 0</p> <p>[kg-CO2]</p> <p>6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月</p>	<p>10,000 5,000 0</p> <p>[kg-CO2]</p> <p>6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月</p>	<p>▲36,706kg-CO2</p> <p>(▲84%)</p>	<p>40,053円/年</p>

②エア漏れ修理

[業者による点検]

[各工場にて修理]



(2) 廃棄物排出量削減

ゴミ分別に対し、的を絞った教育を実施

環境ワンポイントレッスン

作成担当 日	作成者	指導担当 日	家 長	テーマ
担当 日	2023.12.07	担当 日	2023.12.07	環境
担当 日	2023.12.07	担当 日	2023.12.07	環境

ワンポイント

コンビニ弁当容器・お菓子の袋などは、持ち帰り

レッスン

● コンビニ弁当容器・お菓子の袋などは、**燃えるゴミ**ではありません



コンビニ弁当容器・お菓子の袋などは、**プラスチック資源リサイクル**として分別されています。燃えるゴミ(可燃物)としての処理が出来ません

産業廃棄物(埋立ゴミ)での処理になります

● 産業廃棄物の処理には、**多額の費用**がかかります



産業廃棄物の処理費用は、 $1m(1m \times 1m \times 1m)$ の**ゴミで数万円**かかります(参考値)

処理単位での処理となり、一人一人が弁当容器等を使った場合、**処理費用への影響が大変!**

コンビニ弁当容器・お菓子の袋などは、各自持ち帰りをお願いします
 → 処理費用の削減の一助 にかかわります(お願い)します

環境ワンポイントレッスン

作成担当 2023.12.22	作成箇所 東京	作成担当者 長谷川 幸子	受講 部員	テーマ 電線チューブが付いた電線について、電線のリサイクル
--------------------	------------	-----------------	----------	----------------------------------

ワンポイント

収縮チューブが付いた電線は、
仕分けを「電線K」でお願いします

レッスン

収縮チューブが付いていても、**電線K**として買取って頂けます

収縮チューブのみ50K

仕分けを「電線K」にし、回収日に出して下さい

電線Kで売却可能



<参考>
 電線K (2023.12)
 電線K - 400PT / 400
 製造元 - 200PT / 400

廃棄しなくてはならない収縮チューブ付電線が発生してしまつた場合は
より高い金額で買い取って頂けるよう、電線Kとして仕分けして下さい
 ご協力をお願いします

環境ワンポイントレッスン

作成年月日	作成者	監修者/担当者	承認者
2020.12.12	永野	新井 友子	森田 浩一

防水ゴム付付 防水ゴム付付 防水ゴム付付 防水ゴム付付

ワンポイント

防水ゴムが付いた電線は、
仕分けを「電線クズ」でお願いします

レッスン

防水ゴムが付いていても、電線クズとして買取って頂けます

防水ゴムのみなさんOK

仕分けを「電線クズ」にし、回収日に出して下さい



電線クズで
売却可能

＜参考＞
自動車用電線(2022.11)
電線(5.1.480P/kg)
電線(5.1.270P/kg)



分岐

分岐クズ(電線クズ)

廃棄してはならない防水ゴム付電線が発生した場合は
より高い金額で買い取って頂きます。電線クズに仕分けして下さい
で協力をお願いします

(3) 災害(水害)に対する防災・減災対策の推進

工場1Fの最下段(赤カゴ)を荷置き禁止とした



6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況

該当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありません。

関係機関からの指摘、利害関係からの訴訟も過去3年間ありません。

評価日：2024年5月31日

評価者：永野

区分	法令等の名称	該当する 条項等	遵守事項又は規制基準	備考	○：遵守 飯田 田	×：非遵守 下野 野	○：非該当 松野 高橋	○：非該当 内田	○：非該当 九州
義務	○騒音規制法	第3条	地域の指定	高橋：第4種区域 他：第2種区域	○	○	○	○	○
		第5条	規制基準遵守義務		○	○	○	○	○
		第6条	特定施設設置届出		○	○	○	○	○
		第8条	特定施設の変更届		○	○	○	○	○
	静岡県生活環境保全条例	第52条	規制基準の遵守義務		○	○	○	○	○
		第53条	特定施設設置届出	空気圧縮機15kw 台 送風機7.5kw 台	○	○	○	○	○
		第19条	騒音、振動又は悪臭に係る改善命令等		-	-	-	-	○
	○振動規制法	第3条	地域の指定	高橋：第2種区域 他：第1種区域	○	○	○	○	○
		第5条	規制基準遵守義務		○	○	○	○	○
		第6条	特定施設（施行令別表第1）の届出		○	○	○	○	○
		第8条	特定施設の変更届		○	○	○	○	○
	静岡県生活環境保全条例	第79条	規制基準の遵守義務		○	○	○	○	○
		第80条	特定施設設置届出	空気圧縮機15kw 2台	○	○	○	○	○
		第19条	騒音、振動又は悪臭に係る改善命令等		-	-	-	-	○
	○浄化槽法	第10条	保守点検・清掃	点検：4回/年 清掃：1回/年	-	-	○	-	○
		第11条	定期検査	1回/年	-	-	○	-	○
	○廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	第2条	国民の責務	排出抑制・分別徹底・再生利用	○	○	○	○	○
		第3条	事業者の責務（適正処理・排出の抑制）	排出抑制・分別徹底・再生利用	○	○	○	○	○
		第5条	清潔の保持（土地・建物の清潔維持）	廃棄物置き場	○	○	○	○	○
		第6条2	一般廃棄物運搬及び処理委託業者	収集運搬及び処理業者に委託	○	○	○	○	○
		第12条2項	廃棄物の適正保管	保管基準遵守、保管場所表示	○	○	○	○	○
		第12条5項	産業廃棄物の委託処理	収集運搬、処分許可業者への委託	○	○	○	○	○
		第12条6項	運搬又は処分委託時の処置基準遵守	処理業者、処分業者との契約締結	○	○	○	○	○
		第12条3第1項	マニフェスト交付		○	○	-	○	-
		第12条3第2項	マニフェスト保管	A票 5年間保管	○	○	-	○	-
		第12条3第6項	マニフェスト保管	B2、D、E票 5年間保管	○	○	-	○	-
		第12条3第7項	マニフェスト交付状況の知事報告	6月30日迄に提出	○	○	-	○	-
		第12条3第8項	マニフェスト写し送付の適切措置の実施	D、E票の期間内返却	○	○	-	○	-
	静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第10条	委託先の実地確認と記録の保存	記録の保管(5年間) ※優良認定業者の場合確認不要	○	○	○	○	○
	静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第10条	委託先の実地確認と記録の保存	記録の保管(5年間) ※優良認定業者の場合確認不要	○	○	-	○	-
	○ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB処理法）	第2条	事業者の責務（PCB廃棄物の適正処理）	飯田事業所：処置完了 高橋工場：現在展開中	○	-	-	○	-
		第8条	保管の届出		○	-	-	○	-
		第10条	期限内の処理		○	-	-	○	-
		第17条	譲渡し及び譲受けの制限		○	-	-	○	-
	○容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）	第4条	事業者及び消費者責務（分別排出・再商品化推進）		○	○	○	○	○
	○特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	第6条	事業者及び消費者責務（特定家庭用機器の排出抑制及び廃棄時の収集運搬ルール遵守）	TV、冷蔵庫、エアコン廃棄時のリサイクル費用支払い	○	○	○	○	○
	○使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	第5条	自動車の所有者の責務		○	○	○	○	○
		第8条	自動車の廃棄・使用済自動車の引渡義務		○	○	○	○	○
		第73条	使用済自動車の業者への引渡し	廃車時のリサイクル料金の支払い	○	○	○	○	○
	○資源の循環的利用等の推進 静岡県生活環境保全条例	第111条	事業者の責務・廃棄物発生の抑制、分別、再利用、再生利用		○	○	○	○	○
	佐賀県環境の保全と創造に関する条例	第90条	廃棄物の減量等に関する配慮		-	-	-	-	○
	○特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	第4条	事業者の責務（化学物質管理指針に留意し使用）		-	-	-	-	-
		第5条	排出量把握・届出（質量1トン以上）	第1種指定物質年間量1トン以下の為、届出不要	-	-	-	-	-
		第107条	排出の抑制に関する施策の推進		-	-	-	-	-
		第108条	指定化学物質の適正管理等		-	-	-	-	-
	静岡県生活環境保全条例	第39条	指定化学物質の適正管理		-	-	-	-	-
	○ELV規制		鉛、カドミウム、水銀、クロム含有製品の納入		○	○	○	○	○
	○REACH規制		リーチ適合材料製品の納入		○	○	○	○	○
	○フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）	第16条	点検、修理、再充填履歴の記録・保存	パッケージエアコン	○	○	○	○	○
		第18条	管理者判断基準 点検の実施	簡易点検：1回/3ヶ月、定期点検：1回/3年	○	○	○	○	○
		第37条	再充填の適正化		○	○	○	○	○
		第39条	回収の義務		○	○	○	○	○
	○消防法	第9条4	少量危険物及び指定可燃物の貯蔵及び取扱い基準		-	-	-	-	-
		第13条	危険物取扱い作業時の保安監督		-	-	-	-	-
		第17条3	消防用設備点検・報告	消火器、自動火災報知機	○	○	○	○	○
		第18条	消防用設備の損壊禁止	0	○	○	○	○	○
		第21条	検定合格消防用設備の設置	消火器、自動火災報知機	○	○	○	○	○
	○労働安全衛生法	令第21条	自動火災報知機の設置	自動火災報知機	○	○	○	○	○
		第3条	事業者等の責務		○	○	○	○	○
		第20条	事業者の講ずべき措置等		○	○	○	○	○
	○労働安全衛生規則	第65条	作業環境測定		○	○	○	○	○
		第34条の2-8	危険物及び有害物に関する規制	安全データシート(SDS)の運用	○	○	○	○	○
	○自動車等の使用に伴う環境への不可の低減 静岡県生活環境保全条例	第147条	射出成形機、型打ち機等による危険の防止	全自動切断圧着機等	○	○	○	○	○
		第103条	環境への負荷が少ない自動車の購入		○	○	○	○	○
		第104条	自動車等の効率的な使用		○	○	○	○	○
		第105条	駐車時のエンジン停止		○	○	○	○	○
	佐賀県環境の保全と創造に関する条例	第86条	自動車等の効率的な使用等		-	-	-	-	○
責務・努力	○環境基本法	第8条	事業者の責務（水、汚水、廃棄物等の処理その他の公害防止、自然環境の保全に必要な処置を講ずる。製品の使用又は廃棄による環境への負荷の低減に努める）		○	○	○	○	○
	○地球温暖化対策の推進に関する法律	第5条	事業者の責務（温室効果ガス排出の抑制に努める）		○	○	○	○	○
	○循環型社会形成推進基本法	第11条	事業者の責務（廃棄物などの抑制）		○	○	○	○	○
	○資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）	第12条	国民の責務（循環型社会の形成促進と協力）	廃棄物の3R及び適正処理の推進	○	○	○	○	○
		第4条	事業者等の責務（再生資源及び再生部品を利用）	パソコン	○	○	○	○	○
	○国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	第5条	事業者及び国民の責務（積極的な環境物品調達）	エコ製品（事務用品、省エネ製品等）	○	○	○	○	○

義務：守らなければならないこと 責務：義務の場合のように具体的な行為ではなく、抽象的・総合的な政策的行為

※法の最新情報 e-Gov <http://law.e-gov.go.jp/>

(e-Gov:総務省行政管理局運営の総合的行政情報ポータルサイト)

7. 環境経営活動の取組結果の評価

比率:排出量/売上にて算出

達成率:目標比率/実績比率にて算出

評価:達成率100%以上⇒○、100%未満90%以上⇒△、90%未満⇒×

作成日 2024年7月8日

総CO2排出量の削減							評価(問題点)	
工場	総量(kg-CO2)		売上原単位評価				全社目標達成	原単位評価に使用している売上の仕分けを適正化し各工場の評価がより正確になった 今年度は電力に対し具体的な取組みができ、結果に表れた
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価		
飯田	81,330	77,673	78.67	71.65	109.8%	○	是正処置及び予防処置 燃料(軽油・ガソリン)に対してもアクションを行う 次年度から「産業廃棄物」を目標管理に追加する	作成
下野	81,858	85,006	64.34	58.74	109.5%	○		永野
高橋	45,933	42,529	134.33	97.28	138.1%	○		
松野	63,436	62,197	158.38	120.79	131.1%	○		
内田	13,566	15,312	17.80	17.58	101.2%	○		
九州	47,775	51,467	57.40	49.27	116.5%	○	代表者コメント 「脱炭素＝企業の社会的責任」という考えを全従業員へ浸透させること	検印
全社	333,897	334,183	86.03	73.80	116.6%	○		岩田
電力使用量の削減							評価(問題点)	
工場	総量(kg-CO2)		売上原単位評価				全社目標達成	生産活動(売上)増加に対し、各工場での日々の節電活動・省エネエアコンへの買替え(松野)・CO2フリー電気への切替え(下野/高橋)等によりCO2排出量を抑えることができた
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価		
飯田	48,686	48,352	47.09	44.60	105.6%	○	是正処置及び予防処置 CO2フリー電気を継続して使用 必要に応じ他工場も切り替え 老朽化したエアコンを省エネタイプに買い替え検討	作成
下野	50,312	47,111	39.54	32.55	121.5%	○		永野
高橋	40,844	34,862	119.44	79.75	149.8%	○		
松野	40,653	39,715	101.50	77.13	131.6%	○		
内田	13,566	15,312	17.80	17.58	101.2%	○		
九州	44,469	48,157	53.43	46.10	115.9%	○	代表者コメント 省エネ設備の導入検討で更に電気代を減らしていく(間引き含むLED照明への継続的な切替/空調/エアール検出)	検印
全社	238,530	233,509	61.46	51.57	119.2%	○		岩田

軽油投入量の削減(kg-CO2)							評価(問題点)	
工場	総量(kg-CO2)		売上原単位評価				全社目標達成はしているが、燃料(軽油・ガソリン)のCO2排出量・消費量を大幅に削減出来る具体的な策が無い	
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価		
飯田	27,305	21,184	26.41	19.54	135.2%	○	是正処置及び予防処置 国や自治体、環境問題に取り組んでいる団体・企業から 随時情報収集していき、出来る事から課題と向き合っていく	作成
下野	15,884	16,413	12.48	11.34	110.1%	○		永野
高橋								
松野	17,057	14,298	42.59	27.77	153.4%	○		
内田								
九州							代表者コメント 効率的な配送計画・配車を目指し、便の見える化・積載率の低い臨時便の低減によりCO2排出の抑制に繋げる	検印
全社	60,247	51,895	15.52	11.46	135.4%	○		岩田

ガソリン投入量の削減(kg-CO2)							評価(問題点)	
工場	総量(kg-CO2)		売上原単位評価				九州佐賀工場のみ達成 各工場で、内職人数の増加、臨時便の増加があり達成率が下がった	
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価		
飯田	5,338	8,137	5.16	7.51	68.8%	×	是正処置及び予防処置 内職便のルート見直しを随時行い、結果に繋がっているため、継続していく 休憩時間のアイドリングへの対策を検討	作成
下野	15,661	21,483	12.31	14.84	82.9%	×		永野
高橋	5,089	7,666	14.88	17.54	84.9%	×		
松野	5,725	8,183	14.29	15.89	89.9%	×		
内田								
九州	3,306	3,309	3.97	3.17	125.4%	○	代表者コメント 使用状況に併せて配車の最適化や動態管理の共有化等、工夫次第で 全体のガソリン消費量を節約	検印
全社	35,121	48,779	9.05	10.77	84.0%	×		岩田

焼却ゴミ排出量の削減(kg)							評価(問題点)	
工場	総量(kg)		売上原単位評価				九州佐賀のみ未達成 九州佐賀工場では、客先の指示により12月からウェットティッシュを同梱して出荷しており、 返却されたウェットティッシュを全数廃棄していたため排出量が増加した	
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価		
飯田	584	465	0.56	0.43	131.7%	○	是正処置及び予防処置 高橋工場では焼却ゴミを計量していなかったため排出量の数値が少ない 次年度から確実に計量をしていく	作成
下野	887	776	0.70	0.54	129.9%	○		永野
高橋	291	18	0.85	0.04	2125.8%	○		
松野	262	241	0.65	0.47	139.6%	○		
内田	0	0	0.00	0.00	-	-		
九州	62	229	0.07	0.22	33.8%	×	代表者コメント 家庭ゴミと一般ゴミの識別に対する認識を高め、企業として適正な 処理を行うこと	検印
全社	2,085	1,729	0.54	0.38	140.7%	○		岩田

水道投入量の削減(m)							評価(問題点)	
工場	総量評価						総量・原単位共に前年より減少 生産には使用していない(手洗い、トイレ等 生活用のみで使用)	作成
	前年実績	当年実績	前年比	評価	99%	○		永野
全社	1,776	1,763					是正処置及び予防処置 引き続きポスター等で節水呼びかけ 水漏れがないか注意する	検印
	売上原単位評価		前年比	評価	83%	○	代表者コメント 従業員の節水意識の育成と継続的な教育(座学、ポスター等で報提供、具体的な節水行動の例)	岩田

製品への配慮			作成
評価(問題点) ①環境負荷物質の調査	是正処置及び予防処置 ①都度実施 問題なく納期通り提出済み	代表者コメント ①廃棄ロスの低減	永野
			検印
化学物質の適正量把握			岩田
評価(問題点) ①現在該当なし	是正処置及び予防処置 ①必要となった場合は生産の動向に合わせて最低限の購入量に調整	代表者コメント ①関連する法令の把握と理解向上	

8. 代表者による全体の評価及び見直し・指示

(活動期間: 2023年 6月 ~ 2024年 5月)

1. インプット(環境管理責任者)

作成日 2024年 7月 8日

項 目	評 価
環境への負荷の自己チェック	原単位の評価によるPDCAサイクルは定着化した 今後はCO2排出実績値の視点からも数量アプローチ
環境への取組の自己チェック	今後実施していくべき具体的な取組を明らかにし、その取組内容を環境経営計画の策定に反映させる
環境経営目標達成状況	全社目標は達成できたが「ガソリン投入量」への達成率が低い 配車の最適化や動態管理の共有化の工夫をする
環境経営計画の達成状況	環境対応/CO2の削減/脱炭素/各種リサイクルの技術動向を取入れ、 環境経営に役立つ活動を積極的に取入れたい
環境関連法規等の遵守状況	該当する環境法規について継続し遵守 関連する法令の把握と理解の向上が必要
教育・訓練の実施状況	全ての従業員が環境活動の実践者となれる様に、環境問題の自分ごと化を啓発する
外部とのコミュニケーションの状況	苦情や要望事項等はない 環境への配慮から社会貢献まで、適切な意思決定を行っていく
内部監査の状況	しくみや活動を有効性の視点でチェックし、環境経営に貢献できる指摘と改善を引き出していきたい
緊急事態の対策と準備	災害(水害・火災・地震)に対する防災・減災対策を推進 ※2022年9月の台風にて大被害を受けた
規定類・手順書等の関連文書と関連記録の最新版管理	社内規格(中規-2202「文章管理規定」)に基づき維持・管理できており良好

2. アウトプット(代表者)

項 目	変更要否	変 更 内 容
環境経営方針	否	変更無し
環境経営目標	要	売上を反映させた目標管理を継続 2021年度実績の-3%とする
環境経営計画	要	企業経営「ヒト・モノ・カネ」に関わるリスク軽減を考慮 災害(水害/火災/地震)に対する防災・減災対策を推進
環境経営システム	否	変更無し 改善点:内部監査の力量を向上し有効な監査に繋げる

3. 抱負

資源を大切に使い、排出を抑え、環境保全に努める
持続可能な社会の実現に向けて自らの社会的責任を果たす
環境に配慮した製品やサービスを社会に提供することにより、社会の環境負荷低減に貢献する
環境に関する幅広い知識を礎とし環境に積極的に取り組む”人づくり”に取り組む

株式会社中静工業所
代表取締役社長 岩田 潔周

9. 次年度の取組み内容

次年度の環境経営活動内容を示す

作成日 2024年 7月 11日

(1) 二酸化炭素排出量削減 電気使用量の削減

- ① エアコン設定温度(夏28℃・冬18℃)
- ② エアコンフィルターの清掃
- ③ 扇風機適正配置
- ④ 休み時間消灯実施(昼・3時)
- ⑤ コンプレッサーの管理(フィルター清掃/エア漏れ)
- ⑥ 蛍光灯型LEDの導入
- ⑦ 省エネ機器への買換検討(空調機器、コンプレッサー 等)
- ⑧ 電力の消費量の可視化(グラフ化等)
- ⑨ CO2排出量の可視化
- ⑩ デマンド値見直し
- ⑪ 売上を反映したCO2排出量の目標管理
- ★ ⑫ CO2フリー電気の使用
- ★ ⑬ カーボンニュートラルへの取組状況の可視化

(2) 二酸化炭素排出量削減 軽油・ガソリン投入量の削減

- ① 集配ルートの見直し
- ② 臨時集配便の削減
- ③ 日常点検整備
- ④ 集配時のアイドリングストップ
- ⑤ 社用車の軽油・ガソリン投入量、燃費の可視化
- ⑥ CO2排出量の可視化(4項目の指標)
- ⑦ 売上を考慮したCO2排出量の目標管理
- ★ ⑧ 社有車の動態管理の共有化

(3) 廃棄物排出量削減

- ① 裏紙の再利用徹底
- ② 分別ハトロールによる個別指導
- ③ 個人ゴミの持ち帰り
- ④ 分別表示の見直し
- ⑤ ゴミが地球に与える悪影響を教育し、分別意識を高める
- ⑥ ゴミの分別に対し、的を絞った教育を実施し理解を深める
- ★ ⑦ 産業廃棄物の目標管理

(4) 工場毎に特化した活動の展開、記録

- ① 各工場に特化した活動の継続

(5) 排水量削減(水道投入量の削減)

- ① 節水の呼びかけ

(6) 製品の環境配慮

- ① 環境負荷物質調査の対応
- ② 全社に向け状況の周知

(7) 環境に関する幅広い基本知識の習得

- ① 環境に関する幅広い知識を礎とし環境問題に積極的に取り組む”人づくり”

(8) SDGsへの取り組み

- ① 全工場で寄付活動の継続
- ★ ② 近隣学校からのインターンシップ等を受け入れ、地域の教育の場を提供

(9) 災害に対する防災・減災対策の推進

- ★ ① 冠水危険エリアに置かれている部材・完成品・設備等の被害の抑制強化